

第1回土質工学研究発表会特集号の発行にあたって

土 質 工 学 会 調 査 部

昨年 11 月 21 日と 22 日の二日間にわたって開催された第1回土質工学研究発表会は、多数の参加者を得てきわめて盛会であった。

開催の時期と開催地をすっかり変えたということで、発表者にも聴講者にも負担が大きく、その意味では必ずしも好条件でなかったはずであるが、今回の研究発表会に寄せられた関心の度合は高く、従来の学術講演会に比べて格段の差があるように思えた。

発表会および特別講演会を通じて感じたことは、本学会で催しするシンポジウムや討論会でもそうであるように、この発表会でも活発な意見の交換や討論が行なわれ、また特別講演もありきたりのものでなく、おのおの内容のある講演がなされた。

これらのことは、ややもすれば学会のお祭りのな行事となりがちな風潮に対して、そのような事態をまねかず内容のある発表会が催じできたということで、誠に喜ばしく、これが本学会の特徴でもあらうと思う。

最初の試みとしては、さい先よい発足をみたのではあるが、今後さらにこの行事を発展させていくためには、今回行なわれた催しを反省し、不都合な点があればどしどし改善していく必要があろう。とくに本年度は、従来の実施要領を全面的に変えて行なったこともあって、多くの未処理の問題が残されていたように思える。

お世話を願った関西支部からの要望もあり、調査部内でもその必要を感じていたこともあって、ここに「第1

回土質工学研究発表会を願みて」というテーマで座談会を開催した次第である。

座談会のメンバーは、本文に紹介されているように第1回を担当された関西支部、第2回を担当願う九州支部の各役員、参加された代表および調査部の構成で行なわれた。

今回の座談会でとりあげられたことを要約してみると次のようであった。

- (1) 土質工学研究発表会をどのように性格づけていくべきか。
- (2) 講演集の印刷方法、内容審査の要否、および発表件数とページ数の制限の要否。
- (3) 発表会の企画にあたっての要望事項
- (4) 第1回研究発表会を終えての感想、支部で開催されることの意義。
- (5) 第2回を開催するにあたっての要望と方針。

座談会記事を読まれて、いろいろの意見をお持ちの方もあるかと思うが、こうすれば発表会をよりよくできるという建設的な意見があればどしどしお寄せくださるようお願いする。

すでに会告でお知らせしているように、第2回土質工学研究発表会は、11月7、8日に九州、福岡大学で開催されることになっているが、日頃の研究成果をこぞって発表されるよう切望する。

以下第1回土質工学研究発表会の日程を掲げておく。

第1回土質工学研究発表会日程

主 催 土質工学会本部・関西支部
日 時 昭和 41 年 11 月 21 日 (月)・22 日 (火)
会 場 大阪科学技術センターホール

◆第一会場◆

11 月 21 日・午前の部——一般・透水——

司会：浅 川 美 利

大阪付近洪積層の土質力学的性質

竹中準之介・渡辺興一

急速水位降下を伴う井戸揚水による

透水係数測定法について

小田 英一

透水性規制に関する研究

松尾新一郎・大井洋輔・上原方成

・フィルター材としての布の応用

松尾新一郎・富田武満・横井照明

・地下水位変動の非定常解析についての考察

松尾新一郎・河野伊一郎

地盤の型と地下水低下工法

中堀 和英

泥水工法における泥水管理に関する研究 (第一報)

——簡易有効性判定法——

喜田 大三

11 月 21 日・午後の部

——振動・シールド・道路——

司会：小 田 英 一

石油タンク基礎の振動性状について 谷本 喜一
大型起振機による模型岸壁の振動実験

久田安夫・中島幹夫・土田肇
不透水性境界をもつ被圧飽和砂の振動中に

おける間ゲキ水圧変化 吉見吉昭・石井武則
地震時フィルタイプダムの動的粘性係数 南 勲
土の疲労に基づいた輪荷重の求め方について

羅文鵠・山内豊聰

セグメントに作用する土圧ならびに

内部応力の現場測定について 保国光敏・木島詩郎
機械化シールドの掘進性能に関する

土質力学的考察 村山朔郎・遠藤正明・橋場友則

11 月 22 日・午前の部——特別講演——

大阪の地盤 竹中準之介
京阪神における道路整備の展望 三野 定
セン断抵抗を中心とした土質力学の諸問題 星 埜 和

11 月 22 日・午後の部——地盤改良——

司会：谷 本 喜 一

カードボードドレーンを段階施工して
カサ上げを行なった試験堤に関する考察

山内豊聰・石堂 稔

浸透圧による土質安定 三瀬 貞
液体窒素による地盤凍結工法の計画と施工 西垣 好彦
泥炭層における爆破置換工法の現場実験について

坪井直道・内田 博

クレイタイプのアスファルト乳剤による

ソイルセメントの性質改良について

浅川美利・三浦裕二

関東ロームの生石灰による

安定処理の可能性について

松田応作・工藤矩弘・土屋喜代雄・

槻山興一・綿貫輝彦

生石灰処理土の諸性質（その1）——関東ローム

の強度特性ならびにコンシステンシー——

松田応作・工藤矩弘・下田正雄・高橋秀雄

生石灰による土性改良試験について（中間報告）

石田 宏

◆第二会場◆

11 月 21 日・午前の部——圧密・セン断——

司会：三 笠 正 人

m_v , K が変化する放射流れの圧密 中野坦・小林登四郎
斜め粘土層の圧縮 山口柏樹・木村孟

粒状体のセン断変形

最上 武雄

シラスのような砂質土の

インターロッキングについて 春山元寿・山内豊聰
粒子形状を考慮に入れた砂のダイレイタンスー

効果について（乱したシラスのセン断特性に関する
研究—第2報）藤本広・杉尾哲・香月正直・宮崎明
土の塑性力学に関する一、二の考察

（正規圧密粘土の剛塑性理論） 山口 柏樹

傾斜荷重に対する極限支持力の一計算とその適用例

吉田巖・駒田敬一

11 月 21 日・午後の部——支持力・沈下・安定——

司会：山 内 豊 聰

遠心力装置による模型支持力実験（第一報）

三笠正人・磯野昭

地盤と構造物基礎との相互作用について 赤井 浩一

岩盤上土層表面の弾性的沈下について 植下 協

軟弱地盤における盛土の沈下についての一考察

持永竜一郎

地表面の移動速度から見た地スベリ現象とその解析

（その1）——VF 型地スベリの解析—— 玉田 文吾

殻の剛なセル構造物の安定について 宇田居吾一

粘土中の砂柱の支持力特性について（その1）

新見吉和・小川充郎・一本英三郎

11 月 22 日・午前の部 ——休憩——

11 月 22 日・午後の部 ——クイ——

司会：遠 藤 正 明

薄層を支持層とする単グイの先端支持力の特性

片山重夫・福田収・小松幹男

開端グイの先端閉そく効果の考察 田島 重男

クイ変位の時間的経過 馬場善雄・田出宣司

日・蘭・西独の B・S・P 式場所打ちコンクリート

グイの載荷試験およびオランダ式コーン貫入試

験の検討

川崎浩司・喜野和・大橋正尚・永木明世

コンクリートピヤ載荷試験時応力の検討法について

遠藤正明・川崎孝人・幾田悠康・伴野松次郎・

浅田実

高速荷重をうける砂層中の基礎グイの荷重—沈下曲線

竹田仁一・立川博之

アースドリルグイの沈下の原因と解決法の研究

高橋賢之助・北川吉夫

鋼矢板の打込み可能長さについて 石黒健・波多野康男

クイの振動と坐屈 田治米辰雄・望月利男

（1967.3.15 調査部理事・浅川美利）